



バグダッドLO日々業務報告(11月9日1900)

区 分	内 容
1 警戒態勢等	(1) サマーワに直接影響を及ぼす脅威情報 (2) イラク全域に係る脅威レベル サマーワ及びバスラは、バグダッド及びモスルは、ラマディは
2 特記事項	なし
3 本日の業務	情報収集及び連絡調整
4 明日の予定	情報収集及び連絡調整
5 その他(備考)	なし

バグダッド日誌(11月9日)

「IZ訪問(番外編)」

○ ありがとう……?

- ・ 最近も近くで爆破テロが発生したこともあり、我々が勤務するキャンプ・ヴィクトリーとは、異なる雰囲気を感じつつ、米軍のブラック・ホークから降り、少し緊張してIZに足を踏み入れた。
- ・ 何となく視線を感じる……さすがに、指を指す人はいないものの、行き交う人のほぼ大半が我々の緑色の戦闘服の方に、目配せしながら話しているのがわかった。
(あれはどここの国……、さあ……、国旗がついてる……、日本人だ……) そんな会話が聞こえてきそうな感じがした。
- ・ 最初に話しかけて来たのは、フランス人だった。「日本人だろ? ここで日本人に会うのは初めてだ。ようこそIZへ」我々も、イラクでフランス人に会うとは思っていなかった。
- ・ その後、イラク人が「ヤバニ!」と声をかけてきたのを皮切りに、ペルー、ニカラグア、アルバニアが次々に話しかけてくる。「ようこそIZへ」、「初めて日本人をみた」、「日本に行ってみよう。」等々やはり悪い気はしない。「日本人で良かった。」と感じた。
- ・ 最も印象的だったのは、意外なことに米軍人だった。米大使館内を歩いていると、何人かが声をかけてきた。今日初めてIZに来たことを言うと、ほぼ全員が「来てくれてありがとう。」と言う。この言葉にキャンプ・ヴィクトリーとの差が表わされるのかと感じた。

○ イラクを実感

- ・ 危険を体感することはなかったが、IZで勤務する人々が、米大使館施設から外に出るときには、米軍基地内であっても、アーマーを着て、鉄帽を携帯していた。このことがIZの危険度を端的に表していると思う。
- ・ 米国大使館の屋上から、バグダッド市内を覗いていたときのこと、イラク攻撃時、多国軍が爆撃したビルがそのまま残されているのが見える。テレビで観た爆撃の状況、戦争の映像が、自分の目の前の光景と重なり合う。ジッと立っていると「狙撃されるかも……」という不安感を生まれて初めて感じた。小心者の私は小移動を繰り返した。他は? とみると、日本人LO二人も同じように小移動していた。
- ・ 爆撃で崩壊した旧大統領官邸を覗いて、我々にIZ訪問を強く勧めた米軍少佐の言葉を思い出した。「百の会議より、一回の現場」……まさに、実感した思いである。